

令和6年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切に作る心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	1については、保護者のわからないが約10%あり、保護者に教育内容が伝わっていないことが考えられる。通信やHPで様子を知らせたり、道徳や学活を中心とした授業内容の充実に図り、指導の成長を通して保護者が把握できるようにしたい。 2についてもほぼ同様の結果である。三者とも肯定的評価の割合が80%を超えており、一定の成果は得ることができていると思われる。今後も子ども主体の授業づくりを推進していきたい。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		子どもたちが自ら考え、行動していく力を育むための取り組みを行っている9割を超える教職員が考えており、保護者も8割以上が肯定的評価を示しており、成果は感じられる。1、2の評価項目と比べて、児童の認識は6割程度である。「児童が自ら考え出し、それを実践できる場」をさらに創り、児童自身が学校生活や地域社会をよりよくするためにできることを行う喜びを味わわせていくことで意識が高まると考えられる。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。	児童の評価は比較的高いが、保護者にとっては、子どもが行っている学習が個別化された学びであるかの判断材料が不足しているところもあると考えられる。新しい学習観やICTを活用した学校での取り組みを学級懇談会を通して知らせていくことが望まれる。 子ども主体の学びを目指す本校の研究を今後も続け、児童が対話によって学びを構築していく授業スタイルを徹底し、実践していく。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	7 インクルーシブ教育の推進 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	学級支援員の配置や校内での支援体制づくりを進めたり、授業づくりの研修や児童理解の研修の機会を持ったりしながら、一人一人の学習支援を行った。そのため、教職員の評価は肯定的な評価の割合がかなり高い。しかし、それと比較すると、児童、保護者の「そう思わない」の評価が多い。校内研修等で安心できる学級づくりを、また、全員参加型の授業づくりを進めていきたい。

(3) 最適な教育環境の整備		
8 安全・安心な園づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備	
学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。	学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。	8は昨年と比較すると保護者の評価は高くなっている。一方で児童の評価は下がっている。校内における安全指導や安全委員会の呼びかけが課題である。 9については今回の評価において保護者の評価が高い項目で、5年生の稲作体験やPTAによる「カ西フェスタ」開催をはじめとする役員の方々の取り組みが広がりを見せ、高い評価につながっていると考えられる。

(4) こどものいのちと権利の擁護		
10 こどもの最善の利益を守る環境づくり		
学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。		教職員の意識は高いが、保護者と児童の評価は少し低めだった。校則の見直しや学級経営において、児童の意見を反映させたり、児童の思いを共有しながら授業を展開したりするなどの取り組みを進めていきたい。また、授業だけでなく、学級経営を見直し、児童の思いを尊重しながら児童が納得できる指導、支援を行っていくことが必要である。

(5) 本校の教育		
11 自ら進んで行動する子どもの育成（志高く）	0	
こどもは、進んで学校行事に参加していると思いますか。	0	
		様々な学校行事に児童が積極的に参加できており、その姿が保護者、教師の肯定的な評価につながっていると考えられる。今後、学校行事をより豊かで充実したものにすることで、児童が意欲的に、また楽しんで取り組むことができるようにしていきたい。

0		
0		

来年度の具体的な取組について		
<p>(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 主体的に考え行動する力を育むためには、まず、日々の授業づくりが大切であるととらえる。そのため、校内研修を今後も充実させ、日々の授業の中で自ら学びに向かう力を育てていきたい。また日々の授業で身に付けた主体性を学校行事等を通して発揮できるよう、子ども主体の学校行事を工夫していく。</p> <p>(2) こども一人一人を尊重した教育の推進 「個別最適学びと協働的な学びの一体的な充実」に関しては保護者の肯定的評価の割合が低い。児童自身に関しては、肯定的評価がともに80%を超えているが保護者の判断材料が乏しく、保護者に伝わりにくかった部分があると思われる。職員の意識は高く、学校としての取り組みは今後も継続し、授業参観や懇談会等を通してその様子を保護者に伝えていく。</p> <p>(3) 最適な教育環境の整備 PTA活動の充実や感染症の流行が落ち着き、従来の様式に戻ってきたところが数値にも現れていると思われる。本年度は体育の水泳指導に外部の指導者を招き、職員からも好評だった。3年生においては自治会と連携し、昔遊びを通しての交流を実施。今後も公民館やまちづくりセンターと連携し、地域人材を活用した取り組みを継続していく。</p> <p>(4) こどものいのちと権利の擁護 子どもの意見を反映させる取り組みについては、校則の見直し等を行い毎年取り組んでいる。今後も継続するとともに、教育相談を通し、子どもたちの思いを汲み取る機会を確保していく。</p>		

小 中 学 校 関 係 者 評 価

- コロナが落ち着いて、登下校中の様子を見てみると、上級生と下級生のお互いの関わり合いが改めて不足していると感じる。上級生が下級生に教える場、下級生が上級生から学ぶ場の設定を検討してほしい。
- 「10の子どもの最善の利益を守る環境づくり」に関しては、法務局の出前講座を活用することで児童や保護者へ啓発を行うことができるので活用してはどうだろうか。子どもたちの意識化につながると思われる。
- 子どもの権利を守る場を学校が保障していくと、子どもたちがわかってもらえたという意識につながり、自己肯定感が高まるのではないか。校則の見直しについては、先生方がしっかりと考える場と時間を設定して、子どもたちの声を聴きながら取り組まれてきた様子が伝わってきた。
- OPTAを中心に家庭と学校の連携が進んでいるのを聞く。今後も活動を継続してもらいたい。地域の行事でも保護者が集まってくれるため、地域も助かっている。
- 自分自身が回答する時に、本当に学校の様子がわかっていないと、「そう思う」という回答はしづらいものである。しかし、これだけ多くの人が「そう思う」に回答できているということは、本当に保護者に学校の様子が伝わっているからなのだろうと思う。その様子に驚いている。